

幼児の話す力の育ちを見つめる

一年長児Ⅱ期、グループのキャンプの目当て決めの話し合いの場面をとおして一

久保田 貴子

Contemplating Developments of Children's Speaking Ability:
5 and 6 year-old Group Discussion about the Target of Their Camp

Takako KUBOTA

【要 旨】

年長児Ⅱ期になると、様々な活動を通して友達とイメージや思いを出したり受け入れたりして、自分達なりに遊びを進めようとするようになる。

別府大学附属幼稚園では、Ⅱ期、1学期末に1泊2日のキャンプを行う。徐々に期待を高めていく中、キャンプでしたいことや頑張りたいことを出し合うことからグループで目当てを決める活動を行った。積極的に発言する子ども達を中心となって進めようとし、温かい雰囲気の中で、友達や教師に促されたり支えられたりして一人一人が発言し、全員が思いや考えを出した。その後、教師の働きかけにより、出された自分達の考えをもとに更に考えを出し合ってグループの目当てを決めることができた。

【キーワード】

年長児Ⅱ期、考えの出し合い、グループの目当て決め

1. はじめに

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものとして期待されている。入園から幼稚園修了まで、及びその後も見通した保育の在り方が課題であり、学力向上や幼小連携等の取り組みがなされる中、子どもの育ちや教育の質が問われるところである。

改訂された学習指導要領では全ての教科等で言語の力を育むことが明記され、大学生におい

てもコミュニケーション力を育むことが課題の一つである。そこで、生きる力の基礎を培う時期である幼児の話す力の現状を見つめることにより、育ちにつながる保育の在り方を考えたい。

園長を兼務している別府大学附属幼稚園では、幼稚園教育要領の改訂を受けて、平成23年3月に『幼児らしさを大切に自主性を育む教育課程・指導計画』を作成（改訂）した。幼稚園修了までを見通し、育ちの節目で区切った年長児Ⅱ期（5月中旬～9月中旬頃）の子どもの育ちを「友達とイメージをもって～伝えたり受け

入れたりして～」と捉えた。その検証でもあり、保育の質や保育者の質の向上を願い共に学ぶものとしての取り組みである。

2. 研究の目的及び方法

(1) 研究の目的

年長児Ⅱ期、グループの友達と自分の思いや考えを出し合う場面での「話す力の育ち」や「援助」を捉え、話したり考え合ったりする力を育む保育の在り方を考える。

(2) 研究の方法

グループでの話し合いの記録をもとに考察する。

3. 話し合い活動と考察

6月中旬、1カ月後の1泊2日のキャンプに向けて徐々に期待を高めていく中、主たる保育者K教師のほかに各グループにキャンプ当日そのグループに入る教師が入って「グループの友達と一緒に子どもキャンプの目当てを決め、期待を膨らませる」のねらいで保育した。

K教師が「みんなでやってみたいことや頑張ることをお話して決めるんだよ。グループの友達みんなで決めるんだよ。5つも決めると覚えられないから2つか3つがいいかもしれない」と話し、「昨日と同じように紙とペンを配るからね」と、グループに1枚の紙と黒いペン1本を渡した後の活動である。

グループは、気の合う仲間の集まりではなく、年長児(2クラス)担任が一人一人の育ちを見取り、願いを込めてキャンプに向けて決めた6～8人で、2クラスが混ざり合っている。

(1) バッタグループの話し合い

1) 自分のしたいことを出し合う

紙とペンを持っている友達に対して
N子「最初に決めるんやろ?そしたら真ん中に置いて」①

「知っちゃんよ」「真ん中に置いておく」「どこでもいいやん」と、それぞれが思いを出し、みんなの座っている中央に置く。

N子「誰から言う?」①

K男「H君がいい」

H男「えー」①困った様子。

他の子どもはキョロキョロ他のグループの様子を見るなどして進まない。

教師「これがいいと考えてきた人いないの?」返事がない。

「さっき、(全体場でK先生が)みんなに聞いた時、Mちゃん手を挙げたね、言える?」

M子はみんなに注目され固まる。他の子どもはM子の方へ身体を寄せ、聞こうとする。教師が「恥ずかしい?」「こっそり言える?」「無理?」などと、ゆっくり気持ちを聞いていく。

教師「1番に言うのが恥ずかしいの?」

M子「うん」①小さく答える。

教師「あれ(キャンプ地の地図を指す)見てみんなで考えたら?」

N子「沢で頑張りたい」②

教師「Nちゃんと同じ人いる?」

K男「はい」勢いよく手を挙げる

H男が書こうとする。

N子「自分で書く」③

H男が書くのを見ている

教師「Nちゃん、いいの?」

N子 頷く。一文字ずつ伝える。

T男がH男と交代して自分の書ける字を書き、続きをH男が書く。周りの子どもは、それを見ている。

H男(書き終わり)「1個決まった」②

教師「一つNちゃんから頑張りたいことが出たね。みんなは、昨日、あの地図を見ながら楽しいこととか何があるのかとか(年長組担任から)聞いたのね。そしたら、他にも思い浮かぶかもしれないね」

H男 「鍋!」①

唐突な一言に皆が笑う。

教師「鍋をどうするの？」

H男「鍋でみんなでご飯を作りたいんや」

①

教師「ほかのみんなはやりたいことないの？それとも誰かと一緒？」

T子「H君と一緒」①

I子「H君と一緒」

N子(A子に聞き)『(Aちゃんも)一緒』って」④

教師「Mちゃんも考えたみたいよ。まだ、はずかしいかもしれないから、(見ないで)耳だけかしてあげたら？」

N子(隣のM子に)「何がいの？」④

M子(小さい声で)「虫取り」(嬉しそうな表情でみんなに)「虫取りがしたい」

②

T子「自分で書く？H君に書いてもらう？」②

M子「H君。H君書いて」②

H男(書き終え)「4個目決まった②坂を頑張る」

教師「え、4つ？誰の意見？どこの坂？」

A男「はい」(元気よく手を挙げ)「お寺の坂」

N子「こんなんかなあ？」(坂道の角度や距離を手で表現する)⑤

H男が文字に悩みながら一文字ずつ書いていく。他の子どもは周りからのぞき込み、書いていく文字を一緒に読む。M子も身体を前のめりにして覗き込んでいる。③

N子が「誰から言う？」と進めようとするが発言がない。教師の「あれ(キャンプ地の地図)を見てみんなで考えたら」の援助により「沢で頑張りたい」「鍋でご飯を作りたい」「虫取りがしたい」「坂を頑張る」と、出し合った。

〈 話す力の育ち 〉

自分から積極的に発言し、話を進めて行くとするN子

①話を進めようとする。

・「最初に決めるんやろ？そしたら(紙とペンを)真ん中に置いて」

・「誰から言う？」

②教師が全員に話しかけたことに対して真っ先に答える。

・「沢で頑張りたい」

③「自分で書く」と言っただけでも書いている友達に、書いてほしいことを一文字ずつ伝える。(友達の良さを認め、してほしいと思うことを伝えながらその友達にやってもらう)

④発言しない友達に尋ねたりみんなに伝えたりする。

・「『一緒』って」

・「何がいの？」

⑤「こんなんかなあ？」と友達の言ったことをわかりやすいように坂道の角度や距離を手で表現して見せる。

教師や友達に支えられて思いを発言したM子

①みんなに注目され固まる中、教師に様々に言葉を掛けられ気持ちを尋ねられて「うん」と、小さく答える。

②友達に尋ねられ答える。

・「何がいの」と尋ねられ「虫取り」と小さく言った後で「虫取りがしたい」と嬉しそうな表情でみんなに言う。

・「自分で書く？H君に書いてもらう？」と尋ねられ「H君。H君書いて」と言う。

③H男が文字に悩みながら一文字ずつ書いていくのを周りの友達と一緒に身体を前のめりにして覗き込んでいる。「言えた」「聞いてもらえた」と喜びを感じているのであろうと思われる。

話をよく聞き理解していて、自分から発言するT子

①教師の問いかけに自分の考えを言う。

・「H君と一緒」

②次にする手順が分かっている、友達にどうするか気持ちを確かめる。

・「自分で書く？H君に書いてもらう？」

思いや考えを素直に言葉にするH男

①友達や教師の発言を聞いて答える。

・「誰から言う？」「H君がいい」と言われ「えー」と困る。

・「鍋をどうするの」と尋ねられて「鍋でみんなでご飯を作りたいんや」

②決まったことを喜び言葉にする。

・「1個決まった」

・「4個決まった」

〈 教師の援助 〉

①発言を促す。

・「これがいいと考えてきた人いないの？」

②詳しく話して伝えることができるようにする。

・「鍋をどうするの？」

・「え、4つ？誰の意見？どこの坂？」

③具体物を示したり経験したことを思い出させたりして考えられるようにする。

・「じゃあ、あれ見てみんなで作えたら？」と、キャンプ地の地図を指す。

・「みんなは、昨日、あの地図を見ながら楽しいこととか何があるのかとか聞いたのね。そしたら、他にも思い浮かぶかもしれないね」

④友達の考えと同じか尋ねて自分の考えをもてるようにする。

・「Nちゃんと同じ人いる？」

・「ほかのみんなはやりたいことないの？それとも誰かと一緒？」

⑤考えが実現されそうにない時、それで納得できるか念を押して確かめる。

・「Nちゃん、いいの？」

⑥その子の心の動きに添って無理なく発言できるようにする。

・「恥ずかしい？」「こっそり言える？」「無理？」「1番に言うのが恥ずかしいの？」

・「Mちゃんも考えたみたいよ。まだ、恥ず

かしいかもしれないから、耳だけかしてあげたら？」

2) 誰が決めたか(誰の考えか)わかるように名前を書く

N子「でもさあ、名前を書かんと誰がどれを決めたか分からなくなるよ」①

教師「それ、みんなに言ってみたら」

N子「聞こえちゃうと思うけど、名前を書かんと誰がどれを決めたんか分からなくなるよ」①

H男「ああそうやな。いいよ」①

みんなで、紙を見る。

教師「Aちゃん、何だったらいいか悩み中？そこ少し開いているところに入りよ」

少し後ろにいるA子は友達の輪の中に入る。自分の出した考えが書いてある横にN子、H男は自分で名前を書く。

T子「Mちゃん、『書きたい』って、『自分で書く』って」①

M子が名前を書くのを皆見つめる。

H男「上手や」①

M子は、書き終わって教師の方を見てにっこりし、親指を立てて見せる。

H男「次、Iちゃん」①ペンを渡す。

I子「書けない」②

T子「書いちゃうか？」②覗き込む。

I子「頷く」②。

T子「後はAちゃんとTや」③

N子「人と一緒でもいいんで」②

A子「Nちゃんと一緒」

N子「Tちゃんは？」②

T子「ぼくんちはね・・・」④

M子「Tちゃん、あれ見たらわかるんじゃない？」①窓に貼っているキャンプ地の地図を指す。

T子(地図を見て小さな声で)「Mちゃんと一緒がいい」④

皆が見つめる。

M子(周りの友達に)「耳だけでこうした

「らいいんじゃない？」①

全員が耳を傾けて聞こうとする。

T子「Mちゃんと一緒。虫とりがしたい。」

④自分で書く③

書き終わってH男が「よし、出来た」①とほっとした様子。周りの子ども達も笑顔だった。

4つの考えが出たところで、安心感や周りの友達に考えを言いやすい雰囲気が感じられたのだろう。グループの中でその子らしさや持ち味が出てきたようで、教師も子ども達のそんな様子を温かく見守っている。教師の援助によるN子の提案で、一人一人の考えが誰の目にもはっきりするようになった。

〈 話す力の育ち 〉

自分から積極的に発言するN子

- ①グループの活動を進めようとする。
 - ・「でもさあ、名前を書かんと誰がどれを決めたか分からなくなるよ」とつぶやく
 - ・「聞こえちよんと思うけど、名前を書かんと誰がどれを決めたんか分からなくなるよ」
- ②友達の考えを引き出そうとする。
 - ・「人と一緒でもいいんで」
 - ・「Tちゃんは？」

書くことができる自信から友達に積極的に言葉を掛けたり、友達に支えられて考えを発言したりするT子

- ①友達の考えを聞いて代弁する。
 - ・「Mちゃん、『書きたい』って。『自分で書く』って」
- ②友達に自分の考えを話して考えを尋ねる。
 - ・「書いちゃるか？」と覗き込む
- ③思いや考えを言う。
 - ・「後はAちゃんとTや」
 - ・「自分で書く」

- ④友達に尋ねられて考えを言う。
 - ・「ぼくんちはね・・・」
 - ・「Mちゃんと一緒がいい」
 - ・「Mちゃんと一緒。虫とりがしたい」

考えを言えたことや書いた字をほめられたことで自信をもち、友達に積極的に発言するようになったM子

- ①すぐに発言しない友達が発言できるように自分の考えを言う。
 - ・「Tちゃん、あれ見たらわかるんじゃない？」
 - ・(周りの友達に)「耳だけでこうしたらいいんじゃない？」

友達の考えを受け入れたり感じたことを素直に発言したりするH男

- ・「ああそうやな。いいよ」
- ・「上手や」
- ・「次、Iちゃん」とペンを渡す
- ・書き終わって「よし、出来た」

友達に助けられながら意志表示するI子やA子

- ・「書けない」
- ・頷く
- ・「Nちゃんと一緒」

〈 教師の援助 〉

- ①つぶやきを聞き逃さず、伝わるように発言するよう促す。
 - ・「それ、みんなに言ってみたら」
- ②消極的な子どもが輪の中に入ったたり周りの友達も入れてあげる気持ちになるように声を掛ける。
 - ・少し後ろにいたA子に「Aちゃんはなんだったらいいか悩み中？そこ少し開いているところに入りよ」
- ③M子の嬉しさを受け止める。

④子ども達が発言するのを側で聞く。

3) グループ皆でがんばることを決める

教師「みんなの意見が出たね。これをどうする？自分の考えたことだけを頑張ればいい？グループ全員でこれだったらできるぞ、キャンプ楽しみだぞっていうものを決めたらどう？今の五つでみんな覚えられるかな？」

N子「5個も覚えられんわあ。二つとかやったら頑張れるけど」①

周りの子ども達も頷く。

N子「Tちゃんは？」「2個でもいいし1個でもいいよ」②次々に尋ねる。

尋ねる時も相手の発言を待つ時も友達の目を見ている。

N子「Mちゃん、虫とりと坂道」③

T子「Aちゃん決まったって。沢と坂」③

H男が書き足していく。それぞれの子どもが二つに絞って言う。

教師「みんな、今言ったこと全部頑張れる？」

H男「鍋、よくわからんけん、やっぱやめるわ」

教師「そうなん。いいの？」

H男頷く。

教師「そしたら今みんなの意見が四つあるね。どうかな？」

T子「四つも多いなあ。やっぱり二つかな」①

全員 頷く。

T男「ひとつがいい」

T子「T君は1個でどれがいいの？」②

T男は自分の意見のお寺を頑張るを指す。

教師「T君はどうしても最後の坂道を頑張りたいんだね」

T子がもう1度一人一人に紙を見せながら確認し④、「坂を頑張りたい」「みんなでおにぎりを食べたい」「沢を頑張りたい」となる。

教師「坂と沢は頑張りたいことだよ。お

にぎりはしたいことでしょ？そしたら同じ頑張りたいことが二つあるから合体するという方法があるよ」

H男「つなげてみようか」

教師「紙に書いてみたらどう？そしたらどうなるかよくわかるかもしれないよ」

H男が書く。

N子・T子「あ、いいねえ」

教師「どうかな？こうしたらみんな頑張れるかと思って言ったんだけどみんなはどうかな？T男君も」

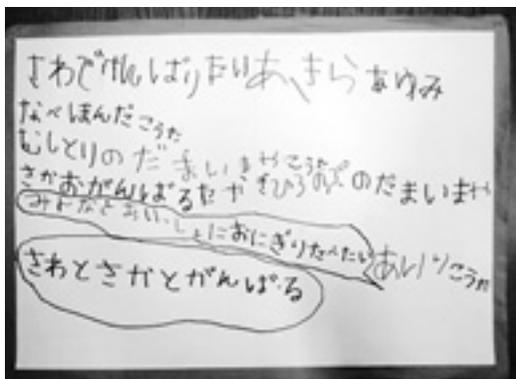
H男「うん。いい」

「出来そう」と口々に言う。

T男「うん」ほっとした表情で頷く。

教師「そう。グループみんなができそうならよかった。キャンプ楽しみになってくるね」

出た意見を集約してグループの考えを導き出そうとする教師の働きかけに、子どもは一生懸命応じた。N子やT子が友達の発言を引き出しながら二つに決めた。



〈 話す力の育ち 〉

自分から積極的に発言するN子

①教師の問いかけに自分の考えを言う

・「5個も覚えられんわあ。2つとかやったら頑張れるけど」

- ②友達の発言を引き出す。
 - ・「Tちゃんは？」
 - ・「2個でもいいし1個でもいいよ」
- ③発言しない友達に尋ねて聞いたことをみんなに伝える。
 - ・「Mちゃん、虫とりと坂道」

積極的に発言するようになったT子

- ①教師の問いかけに自分の考えを言う。
 - ・「四つも多いなあ。やっぱり二つかな」
- ②友達の発言を引き出す。
 - ・「T君は1個でどれがいいの？」
- ③発言しない友達に聞いたり聞いたことをみんなに伝えたりする。
 - ・「Aちゃん決まったって。沢と坂」
- ④もう1度一人一人に紙を見せながら確認する。

教師の言葉を受け入れ、グループの意見を集約しようとしたり納得したりする子ども達

- ・周りの子ども達も頷く
- ・名前を書き足していく
- ・それぞれ二つに絞る
- ・「鍋、よくわからんけん、やっぱやめるわ」と言う
- ・全員が頷く
- ・「ひとつがいい」と言う
- ・自分の意見を指す
- ・「紙に書いてみたらどう？よくわかるかもしれないよ」と言われ書く
- ・「坂を頑張りたい」「みんなでおにぎりを食べたい」「沢を頑張りたい」となる
- ・「つなげてみようか」と言う
- ・「うん。いい」と言う
- ・みんなが「出来そう」と口々に言う
- ・ほっとした表情で頷く

〈 教師の援助 〉

- ①意見が出たことを認め、集約するよう働きかける。

- ・「みんなの意見が出たね。これをどうする？自分の考えたことだけを頑張ればいい？グループ全員でこれだったらできろぞ、キャンプ楽しみだぞっていうものを決めたらどう？今の五つでみんな覚えられるかな？」
- ・「みんな今言ったこと全部頑張れる？」
- ・そしたら今みんなの意見が四つあるね。どうかな？」
- ・「坂と沢は頑張りたいことだよ。おにぎりはしたいことでしょ？そしたら同じ頑張りたいことが二つあるから合体するという方法があるよ」
- ②子どもの考えを大切にする。
 - ・「そうなん。いいの？」と、考えを取り下げようとする子どもに念を押す
 - ・「T君はどうしても最後の坂道を頑張りたいんだね」
- ③方法を提案し、子ども達が納得できるか確かめたり、キャンプへの期待を高めたりする。
 - ・「紙に書いてみたらどう？そしたらどうなるかよくわかるかもしれないよ」
 - ・「どうかな？こうしたらみんな頑張れるかと思って言ったんだけどみんなはどうかかな？T男君も」
 - ・「そう。グループみんなができそうならよかった。キャンプ楽しみになってくるね」

(2) いちごグループの話し合い

1) 一人一人が頑張ることを言う

A子「じゃあ名前だけ書こうかな」①
 S子がすぐに自分の名前を書く。
 Y男「『お』は書けるけど『め』とかは書けん」
 A子・S子「書ける字だけでいいよ」③
 A子「S男君。次はH男君」①
 自分で名前を書く。A子は書けない字を書いてあげる。
 A子「Nちゃん、ここに書いて」②
 A子「Hちゃんは書いちゃんな」③
 S子「私、坂を頑張るにするわ。だから坂

か。3個がいい人手を挙げて」①
 一人挙手。
 A子「2個がいい人手を挙げて」①
 4人挙手。
 S子（手を挙げていないのを見て）「3個か2個かどっちがいい？H君」③
 H男「1個がいい」
 教師「何で1個がいいか、3個がいいか話をしてみたら？」
 S子A子「1個でいい人、手を挙げて」①
 全員挙手。
 教師「3個や2個がいい人がどうして1個がいいってなったの？誰か素敵なことを言って1個になったのかそこが聞きたい。1個ということは3個の中から1個を決めるんで。どうする？」
 A子「自分のがいい人、手を挙げて」①
 S子「自分のじゃなくていいよ」④
 A子「決まらん」⑤教師を呼びに行く。
 教師「『決まらん』と言ってきたけど何で困ってるの？1個にするためには決めんといけんのや」
 S子「どれでもいい②」
 教師「『どれでもいい』って先生違うと思う」
 S子「丸いやつ」②
 教師「『丸いの』ってわからん」
 S子「つるつるの坂がいい人？」③
 全員手を挙げる。
 教師「あ、皆だ。1個に決まったな」
 A子「つるつるの坂の人、手をあげちよってよ」②
 A子は紙を裏返し、一人一人に確認しながら名前と「つるつるの坂を頑張る」と書いていく。
 A子に聞かれてH子が首を振る。
 S子「Hちゃん、何がいの？言葉で言わんと分かんよ」③
 I子「Hちゃん、何か言って」
 A子・Y男「困ったなあ」③
 H子「川」

顔を見合わせ、みんなどうしようと言う表情。
 A子・Y男「あそこ（絵地図）のところで教えんと」③
 N子がH子の手を引き、みんなで地図を掲示しているところへ行く。
 S子「ここ（川）とここ（坂）で」④
 A子「ここが沢でその上がつるつる坂で」②
 H子「上」と指す
 A子「じゃあ、決まったな」③
 Y男「つるつるのところじゃん」
 S男「つるつるのところ、Hちゃん」
 元の場所に戻り、A子がH子のところに「つるつるの坂を頑張る」と書く。
 I子・Y男「決まった！」
 教師のところに行って一人一人が決まった頑張ることを言う。
 N子「・・・」
 教師「分かったか、ちゃんと言わんと分かんよ」
 N子 小さな声で「つるつるの坂を頑張る」
 教師「どうやったらつるつるの坂に登れるか話したら？」
 A子「丸くなって。Aがまん中にいるから」③ 子ども達が丸くなる。
 Y男「腕に力をつけんと」
 I子「チビッコランドで登って練習したらいい」
 H男「雲梯をしたらしい」

教師に強く促され、何とか自分達で1つに絞る。一人が理解してないことに気付いて、わからせようと全員で働きかけて納得させ、グループの目当てを「つるつるの坂を頑張る」と決めた。

〈 話す力の育ち 〉

進めようと発言するS子

①がんばることを絞ることを提案する。
 ・「先生が言ったけど、ねえねえ、グループ

- プで1個とか2個とか決めるんで」
- ②自分の考えや思いを発言する。
- ・「どれでもいい」
 - ・「丸いやつ」
 - ・「決まらん」
- ③友達に考えを尋ねたり発言を促したりする。
- ・「3個か2個かどっちがいい？H君」
 - ・「つるつるの坂がいい人？」
 - ・「Hちゃん、何がいの？言葉で言わんと分からんよ」
- ④友達が考えたり理解したりできるように言う。
- ・「自分のじゃなくていいよ」
 - ・「ここ（川）とここ（坂）で」

友達の考えを取りまとめようとするA子

- ①友達に意志表示するように言う。
- ・「じゃあ、3個にするか2個にするか。3個がいい人、手を挙げて」
 - ・「2個がいい人、手を挙げて」
 - ・手を挙げていないのを見て「3個か2個かどっちがいい？H君」
 - ・「1個でいい人、手を挙げて」
 - ・「自分のがいい人、手を挙げて」
- ②友達に頼む。
- ・「つるつる坂の人、手をあげちよってよ」
- ③自分の思いや考えを言う。
- ・「困ったなあ」
 - ・「じゃあ、決まったな」
 - ・「丸くなって」
- ④友達が考えられるように言う。
- ・「ここが沢で、その上がつるつる坂で」
- ⑤困って教師を呼びに行く。

意志表示しない友達に声を掛けたり決まったことを喜んだりする子ども達

- ①発言を促す。
- ・「Hちゃん、何か言って」
 - ・「Hちゃん、何がいの？言葉で言わんと分からんよ」
 - ・「困ったなあ」

- ②理解できるようにする。
- ・「あそこ（絵地図）のところで教えんと」
 - ・「ここ（川）とここ（坂）で」
 - ・「ここが沢でその上がつるつる坂で」
 - ・「つるつるのところでHちゃん」
- ③決まったことを喜び発言する。
- ・「じゃあ、決まったな」
 - ・「決まった！」

〈 教師の援助 〉

- ①子ども達が決めたことを認める。
- ・「すごい！一人ずつ考えてきたの？読んでいい？Y君、坂を頑張る・・・」全部読み上げる。
 - ・「あ、皆だ。1個に決まったな」
- ②もっと具体的に伝わるように問い返す。
- ・「ロープを上るってどこのこと？坂はどこのこと？」
 - ・「『丸いの』ってわからん」
- ③子ども達の話していることを整理する。
- ・「みんなが言ってることは三つのこと。先生が印をつけるよ。①坂を頑張る②つるつるの坂を頑張る③沢を頑張るの3個だよ」
- ④次にどうすればよいか、することがわかって考えられるように話す。
- ・「三つにするか二つにするかみんな決めてるんだよ」
 - ・「それは自分達で言わないと」
 - ・「何で1個がいいか、2個がいいか3個がいいか話をしてみたら？」
- ⑤考えを引き出す。
- ・「3個や2個がいい人がどうして1個がいいってなったの？誰か素敵なことを言って1個になったのか、そこが聞きたい。」
 - ・「1個と言うことは、3個の中から1個を決めるんで。どうする？」
 - ・「決まらんと言ってきたけど、何で困ってるの？1個にするためには決めんといけん」
 - ・「『どれでもいい』って違うと思う」
- ⑥自分の言葉で言えるように励ます。
- ・「分かったかちゃんと言わんと分からんよ」

4. 2つのグループの活動を通して見られた話 す力の育ち

〈 バッタグループ 〉

○N子は、教師の問いかけに真っ先にこたえて自分の考えを言う、友達の考えを引き出そうとする、発言しない友達に尋ねたり聞いたことをみんなに伝えたりするなどして積極的に発言し、グループの活動を進めようとした。

○M子は、みんなに注目され固まる中、教師や友達に支えられて思いを発言した。考えを言えたことや書いた字をほめられたことで自信をもったようで、すぐに発言しない友達が発言できるように、自分の考え（自分がしてもらったようにしてあげよう）を発言した。

○T子は、よく聞いて何を話し合うか理解しており、教師の問いかけや友達に尋ねられたことに自分から発言した。書くことができる自信もあり、積極的に言葉を掛けたり（友達にどうするか気持ちを確かめる、自分の考えを話して考えを尋ねるなど）、友達の考えを聞いて代弁したりした。考えを尋ねられ戸惑ったときは友達に支えられて発言した。話し合いの後半になるほど、積極的に発言するようになった。

○H男は、友達や教師の発言を聞いて答える、決まったことを喜ぶなど、思いや考えを素直に言葉にしていた。

○自分から発言しない子どもも、友達に尋ねられると答えた。

○子ども達は、教師の言葉を受け入れ、自分達の出した考えをもとに更に考えを出し合ってグループの目当てを決めた。

〈 いちごグループ 〉

○A子は、何をすればいいか分かっていて、友達にしてほしいことを言う、考えを次々に尋ねる、意志表示するように言う、提案する、考えることができるように言うなど、友達に働きかけたり考えを取りまとめようとしたりした。決めたことを書きながら話を進めたり、困った時に教師（K教師は全体の指導者であり、グルー

プの先生でもあったため）を呼びに行ったりした。

○S子は、自分から考えや思いを発言したり、「グループで1個とか2個とか決めるんで」と話し合いの方向を提案したりして進めようとした。友達に考えを尋ねる、発言を促す、友達が理解できるように言うなど友達が気遣っていた。

○グループの子ども達は、意志表示しない友達に「何か言って」「言葉で言わんと分からんよ」などと発言を促す、友達が理解できるように教えるなどして働きかけた。1つに決まったことを「じゃあ、決まったな」「決まった」と喜んだ。

〈 両グループでの話す力の育ち 〉

○積極的に発言する子どもが中心となって進めようとし、それに添って周りの子ども達は考えを発言した。

- ・友達の考えを次々に尋ねたり意志表示するように促したりする
- ・友達が理解できるように言う
- ・友達に提案したり考えられるように言ったりする
- ・友達にしてほしいことを言う
- ・困って教師を呼びに行く
- ・もう1度一人一人に紙を見せながら確認する など

○自分から発言したり思いや考えを素直に言葉にしたりした。

- ・友達や教師の発言を聞いて答える
- ・教師の問いかけに自分の考えを言う
- ・決まったことを喜び、言葉にする
- ・友達に尋ねられて考えを言う など

○教師や友達に促されたり支えられたりして一人一人が思いや考えを言った。

- ・友達に尋ねられて答える
- ・考えを言えたことや書いた字をほめられたことで自信をもち、友達に積極的に発言するようになった など

○自分から発言しない友達に、発言できる

ように声を掛けていた。

- ・「○○ちゃんは？」と促したり「何がいいの」「友達と一緒にでもいいよ」などと言ったりする
- ・すぐに発言しない友達が発言できるように（自分がしてもらったと同じようにしてあげようと）提案する など
- 発言しない友達に尋ねたり、聞いたことをみんなに伝えたりした。
 - ・友達の考えを尋ねて代弁する
 - ・友達に自分の考えを話して考えを引き出そうとする など
- 一人一人の出した考えからグループの目当てを決めるには教師の援助が必要であった。子ども達は、教師の言葉を受け入れ、何とか自分達で集約しようと考えを出し合って決めた。
- 自分達で決めたことが理解できていない友達のいることに気付いて困り、よくわかるように考えて皆で教えた。
- 「あ、いいねえ」「決まった」と自分達で決めたことを喜んだ。

年長児Ⅱ期において、一人一人が考えを出し合うことからキャンプの時にグループ皆でがんばることを決める活動は成立した。

温かい雰囲気を感じられ、「教師に促され一生懸命に発言しようとするM子の方へ身体を寄せ、聞こうとする」「交替で書いたり書ける友達に書いてもらったりする」「悩みながら一文字ずつ書くのを周りの子ども達が覗き込み、書いていく文字と一緒に読む」などの姿に、教師との信頼関係や友だちを大切に思う子ども達同士の人間関係の育ちが見られた。一人一人を大切にしている保育の姿勢が子どもの姿として表れていると思われた。

5. 教師の援助

バッタグループに入ったS教師、全体の保育をしながらいちごグループに入ったK教師の援助をまとめた。

一人一人が思いや考えを出せるようにする

- 発言や考えを引き出そうとする。
- 考えを引き出す。
- 自分の言葉で言えるように励ます。
- その子の心の動きに添って無理なく発言できるようにする。
- 消極的な子どもが輪の中に入ったり周りの友達も入れてあげる気持ちになったりするように、声を掛ける。
- 嬉しさを受け止める。
- 詳しく伝えることができるようにする。
- もっと具体的に話せるように問い返す。
- つぶやきを聞き逃さず、
伝わるように発言するよう促す。
- 子どもの考えを大切にする。
 - ・考えを取り下げようとする子どもに「そうなん。いいの？」と、念を押す
 - ・「T君はどうしても最後の坂道を頑張りたいんだね」
- 具体物を示したり経験したことを思い出させたりして、考えられるようにする。
- 考えが実現されそうになり、納得できるか念を押して確かめる。
- 友達の考えと同じか尋ねて自分の考えをもてるようにする。

伝えられるように

考えられるように

グループの目当てを決めることができるようにする

- 自分達で決めた（意見が出た）ことを認める。
- 次にすることがわかって考えられるように働きかける。
 - ・「三つにするか二つにするかみんな決めてるんだよ」
 - ・「1個と言うことは、3個の中から1個を決めるんで。どうする？」
 - ・「決まらんと言ってきたけど、何で困ってるの？1個にするためには決めんといけん」
- 子ども達の話したことを整理する。

- 教師の考えを伝える。
 - ・「それは自分達で言わないと」
 - ・「3個や2個がいい人がどうして1個がいいってなったの？誰か素敵なことを言って1個になったのかそこが聞きたい」
 - ・「『どれでもいい』って違うと思う」
- 方法を提案したり、子ども達が納得できるか確かめたりする。
 - ・「何で1個がいいか、2個がいいか3個がいいか話をしてみたら？」
 - ・「同じ頑張りたいことがあるから合体という方法もあるよ」
 - ・「紙に書いてみたらどう？どうなるかよくわかるかもしれないよ」
 - ・「こうしたら皆頑張れるかと思って言ったんだけどみんなどうかな」
- グループの目当てを決めたことを認め、キャンプへの期待を高める。

積極的な子ども達を中心にグループで考えを出し合うのを聞きながら、子どもの考えを大切に、目当てを決めることができるように方向づけていた。子ども達が考え自分達で決められるように、言葉を掛けるタイミングや内容を考えながら援助したことにより、キャンプへの期待が膨らんだ。

6. 成果と課題（話す力を育む保育の在り方を考える）

- 信頼関係の深まりや人間関係の育ちが見られた。

幼稚園教育の基盤となることであり、一人一人が集団の中で安心感をもちその子らしさが発揮できることを願って、3歳児4歳児からの積み重ねを大切にしている。グループの話し合いで、一人一人が発言できるように子どもたちが互いを大切にしていた。

- グループ皆で頑張ることを自分達で決めることができた。

楽しみにしているキャンプであるので、それまでに得ている情報で自分なりに考えたり、友達の発言を聞いたり、発言しない友達のを引き出そうとしたりしながら、考えを出し合った。「グループ皆で頑張ることを話し合って決める」という抵抗を、教師の援助により自分達で乗り越えた経験は大きい。対立が見られなかったのは、自分を主張するより何とか絞ろうとする気持ちの方が強かったためと思われる。グループの友達と一緒にという目的意識の芽生えが感じられた。

子どもたちなりに思いや考えを出し合いグループの一人一人が納得して決めるこうした話し合いは、今後の協同の遊びの展開に必要であり小学校の授業にもつながる。考えを出し合う過程を大切に積み重ねていきたい。

- 話し合いの中で一人一人や集団の育ちを見取り、話す力や聞く力、理解したり考えたりする力などの個人差に応じて、きめ細やかに援助する。

教師の言動や考えなどを子ども達は取り込んでいく。声を掛けられた当人も周りの子ども達も、教師の言動を实によく見ていた。どんなタイミングでどんな援助をするか、話し合いを温かく見守りながら工夫したい。

- 話し合うために、子ども達が理解したり考えたりしやすい環境を工夫する。

グループに渡された1枚の紙に一人一人の考えを書いていくことで、発言したことが目に見えるので、考えたりグループ意識をもつ拠り所となったりしていた。文字に興味をもち始めた時期で、十分には書けなくても書ける子どもが中心になって自分たちなりに書き表し、話し合いが進んだ。子ども達の力に応じた記録を大切にしたい。

保育室に掲示しているキャンプ地の大きい絵地図を見て確認しながら話し合う姿が多く見られたので、保育後、グループに一枚ずつの絵地図とシールを用意することを提案した。その後のグループ活動で、一人一人が自

分の頑張るところにシールを貼る、皆で頑張るところを書き込む、色を塗るなどして絵地図を完成させながらキャンプへの期待を高めていった。



〈 バッタグループの絵地図 〉



〈 いちごグループの絵地図 〉

○自分達で話し合ったことが遊びや活動に活かされた。

キャンプでは、自分達の絵地図を見ながら歩くうちに地図と現地が同じであることを実感して自分達で活用するまでになり、グループの友達同士で「ここは〇〇ちゃんの頑張るところでしょ」「皆でがんばるつつる坂に行こうよ」と声を掛ける姿が見られた。話し合ったことが目に見えたり、自分達の遊びや活動に活かされたりしたことが意欲につながっていった。

話し合うことで、楽しく活動できこうした経験を幼稚園修了へ向けて積み重ねていきたい。

参考文献

- 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
- 『幼稚園教育要領の基本と解説』 フレーベル館
- 『教育課程・指導計画』 2011.3 別府大学附属幼稚園